Quarterly Journal of Seismology

Vol. 48

験震時報

第 48 巻

昭和59年 7月

気　象　庁

Published by the Japan Meteorological Agency
Tokyo

July 1984

第48巻 総目次

古屋　逸夫・檜皮　久義：気圧変化及びレーリー波入射に対する埋込式体積歪計の応答 …… 1
市川　政治・安部　徳郎：仙台管区気象台におけるL-ADESS地震端末による
地震データの処理状況 …… 7
二瓶　信一・檜皮　久義：三ヶ日における埋込式体積歪計に対する降雨の影響 ……18
福留　篤男：埋込式体積歪計による地球潮汐の観測 ……23
浜田　信生・吉田　明夫・橋本　春次：気象庁震源計算プログラムの改良
（1980年伊豆半島東方沖の地震活動と松代群発地震の震源分布の再調査）…… 35
涌井　仙一郎：気象庁とUSGSの震源要素の地域的比較及び松代の走時残差…… 57
久本　壮一：桜島爆発の時間的分布（その2）…… 65
前橋地方気象台：1982年10月26日、12月29日の草津白根山の噴火…… 69

Quarterly Journal of Seismology

Vol. 48

Contents

I.Furuya and H.Hikawa:On an Observed Strain Change by Rayleigh Wave Incidence and Atmospheric Pressure Change …… 1
M.Ichikawa and T.Abe:Recent Seismological Data Processing in the Sendai District Meteorological Observatory and Statistical Studies on the Results obtained …… 7
S.Nihei and H.Hikawa:Effect of Precipitation on Borehole Volume Strainmeter at Mikkabi ……18
A.Fukudome:Tidal Observation by means of Borehole Volume Strainmeters ……23
N.Hamada, A.Yoshida and H.Hashimoto:Improvement of the Hypocenter Determination Program of the Japan Meteorological Agency(Reanalyses of the Hypocenter Distribution of the 1980 Earthquake Swarm off the east coast of the Izu Peninsula and the Matsushiro Earthquake Swarm) …… 35
S.Wakui:The Relation Between Epicenter Parameters in and near Japan Determined by JMA and USGS and Travel Time Residuals at Matsushiro …… 57
S.Hisamoto:Time Distribution of the Occurrence of Sakurajima-Explosions (Part II) …… 65
Maebashi Local Meteorological Observatory:Report on the Eruptions of Kusatsu-Shirane Volcano, on 26 October and 29 December 1982 …… 69

験震時報投稿規定および投稿の手引き

験震時報は全国気象官署の職員が行った気象庁の地象業務に関連する分野の研究・調査を掲載し，原則として年4回刊行する．内容は論文・報文および雑報である．論文は新しい知見を含むもの．報文は論文と比較して調査・資料的傾向のあるもの．雑報には寄書・短報・速報・討論・著作目録・正誤表を含む．

原稿は投稿規定と投稿の手引きに従って作成する．不備な原稿，次の**投稿規定**に沿わぬ原稿は返却することがある．

1. 他誌に掲載したものをそのまま再投稿してはいけない．また，他誌に掲載したものの続編形式にはしない．
2. 原稿の本文は和文とする．和文は原稿用紙に読みやすく書く．アブストラクト等の英文はなるべくタイプライターを使う．
3. 表題は和文と英文で書く．
4. 著者名は漢字とローマ字で略さずに書く、所属官署名は和文で書く．
5. 論文には英文アブストラクトを付ける．英文アブストラクトは別紙に書く．
6. 図はトレーシングペーパーに墨や製図用インクではっきりと描く．また，赤・黄等の紙や方眼紙，リコピーの用紙およびボールペン・サインペン等を使わない．
7. 図表の表題・説明は論文の場合原則として英文で，その他の場合和文で書く．図の表題・説明は別紙にまとめて書く．
8. 本文の末尾における参考文献は，原則として次の形式に従って列記する．

雑誌――著者名（年）：表題，雑誌名，巻数，号数(省略してもよい)，ページ～ページ．

単行本――著者名（年）：書名，第何版，発行所，総ページ pp. 数．または引用ページ．

（例）

久野　久（1958）：大島火山の地質と岩石，火山，第2集，3，大島特別号，1～16.

Gutenberg, B. and C. F. Richter (1942) : Earthquake Magnitude, Intensity, Energy and Acceleration, Bull. Seism. Soc. Amer., 32, 163～191.

竹内　均（1966）：地球物理学（坪井忠二編），第1報，岩波書店，67～71.

Jeffreys, H. (1959) : The Earth, 4th ed., Cambridge Univ. Press, 108～113.

9. 著者には別刷50部を無料で送付する．
10. 原稿送付先は気象庁地震予知情報課

原稿を作成するときは，次の**投稿の手引き**の各項の趣旨に沿うこと．また，原稿提出前には以下の各項に沿って必ず原稿を点検する．

1. 本　文

1.1　編集・印刷の便宜上400字詰の原稿用紙を使う．

1.2　図表用のスペースを本文にあけておかない．

1.3　数式は2行取りに書き，数式の文書・記号をはっきりと説明する．

1.4　誤まりやすい英字・ギリシヤ文字・ベクトル記号にはフリガナを付け，大文字・小文字の別を示す．添え字は判別出来るようはっきり書く．

1.5　暦年には原則として西暦を用いる．

1.6　人名の敬称は原則として省略する．

2. 表題・アブストラクト・はしがき

2.1　表題は具体的に内容をよく伝えるものであること．

2.2　英文の目的・仮定・方法・結論等を明確に書き，次の諸点を留意する．㋑表題をそのまま使って第1行を書き始めない．㋺図・表・式・文献の番号を引用しない．㋩第三者の立場で書き，I や We を用いない．

2.3　はしがきには，本文の目的・方法・意義・他の研究との関連等を書く．

3. 図　表

3.1　図表の数は最小限にとどめる．

3.2　図表のそう入箇所を本文の欄外に記入する．

3.3　図表中の文字・記号等をもれなく説明する．また，必要な単位は必ず付ける．

3.4　製版後，図の修正は不可能だから注意する．

3.5　原図の大きさは印刷時の2～3倍（線拡大率）くらいがよい．図に記入される英字・数字は印刷時の大きさが1mm，漢字の場合は1.5mm以下にならぬようにする．

昭和59年8月30日発行

編集兼発行人　気　象　庁
東京都千代田区大手町1ノ3－4

印　刷　所　株式会社　双　文　社
東京都文京区本郷1－14－8